

いきいき新聞

4月号

地域のにぎわい創出！

まちの駅 城西に行ったら 誰かに会える！

城西



津山まちの駅城西（作州民芸館）

城西地区では、平成23年に地域運営組織である城西まちづくり協議会を設立させました。協議会は、まちづくり部会、福祉部会（小地域ケア会議）、防災防犯部会の3つの部会で構成されています。

また、協議会は城西地区にある「作州民芸館」の指定管理者となり、平成31年4月「津山まちの駅 城西」を地域づくりの拠点としてオープンさせました。

「まちの駅 城西」に行ったら誰かに会える！国の登録有形文化財で大正ロマンを感じさせる建物の中には子どもからお年寄りまで賑やかに集い、地元野菜や漬物、豆腐、おこわなどが販売され、地域のお母さん方が作ったお惣菜やお弁当も並びます。駄菓子コーナーでは、子どもが自分で購入金額の合計を計算するユニークな取り組みを行っています。



まちの駅 城西浪漫館

2号店オープン

まちの駅 城西浪漫館

その1年後、協議会はさらに指定管理を受け、令和2年4月5日にまちの駅の2号店となる「まちの駅 城西浪漫館」が、田町の国登録有形文化財の城西浪漫館にオープンしました！地域一丸となって1年間やってきた「まちの駅城西」（1号店）のノウハウを活かして、「にぎわいの創出」を目指して、2号店を運営していきます。



入り口にある看板

津山市地域づくりサポートセンター
津山市大田920
リージョンセンター内
電話27-0600



城西焼き印入りおせんべい

高須駅長のおすすめ商品は食品添加物なしの栄養バランスのとれた手作り弁当！栄養士の資格をもつスタッフを含めた地域のお母さん方が毎朝作っており、大人気。城西の焼き印入りおせんべいもお手頃価格でサイズも選べ、ちよっとしたおやつや贈りものにもおすすめです。



コーヒーカーン

駅長おすすめ商品！

物販コーナーでは、地元産の野菜や漬物、豆腐、パン、城西オリジナル商品などが販売され、日替わりの手作り弁当も並びます。カフェでは「珈琲」の漢字を考案した津山藩の藩医で蘭学者の宇田川榕菴にちなんだ「榕菴珈琲」も楽しめます。希望があれば当時のコーヒークーヒーカーンで提供します。



高須駅長 城西浪漫館前にて

協議会の会長であり、まちの駅の高須駅長は「新たな地域の拠点となることが目標。にぎわいを創出したい。みんなが寄って、カフェでお茶を飲みながら話をし、そこに行ったら誰かに会える」と抱負を話してくれました。城西まちづくり協議会の佐々木事務局長は「まちの駅が近所に出来て、良かったという声や、初めて来てくださったお客さんも多くいます」と利用者の声を教えてくださいました。素敵な笑顔のスタッフさんがみなさまのお越しをお待ちしております。

★津山まちの駅城西
午前9時～午後5時（カフェは10時から）作州民芸館 津山市西今町18

★まちの駅 城西浪漫館
午前10時～午後5時（カフェは午後4時まで）
城西浪漫館 津山市田町122

両館ともに、月曜日休館（祝日の場合翌日）です。

発行

ホームページ QRコード

印刷機あります
有料用紙持ち込み

視察 真庭市美甘地区へ

津山市の田邑まちづくり活性化協議会では、平成28年度に地域の課題や困りごとを把握するためアンケートを行いました。アンケート結果を基に会議や打合せを重ね、「田邑Daze部会（魅力発掘・活用）」「ふれ愛部会（交流・福祉）」「たすけあい部会（防災防犯）」の3部会で地域の課題解決に向けた取組みを進めています。

たすけあい部会では防犯・防災、生活の困りごと、生活不安解消の仕組みなどを考えており、協議会としてもこれからの田邑地域の空き家の問題や草刈りや移動などの生活支援の事を考えていく上で、実際に住民主体で動くとなったらどんなイメージなのか？ということとで先進地への視察に行くことに決まりました。

真庭市美甘地区へ

みんなの集落研究所が視察の調整を担当し、令和2年3月20日（金）に真庭市美甘地区に視察へ。25名以上の参加でした！

講師の稲田さんが代表を務める「グランパ美甘」、共同で代表を務める「くらしのサポート黒田」では、行政には頼らず地域のことは地域で解決しよう、空き家調査や管理、高齢者の買い物、買い物ツアアについてのお話を伺いました。田邑に戻ってすぐに会議が行われ、「いろいろ勉強ができて良かった。できることから試しても良いから、やはりはじめよう」との声が多数ありました。今回の真庭市美甘地区への視察は、普段夜の会議に來れない人の参加もあり、皆さんと地域の空き家や移送支援について一緒に考え、とても有意義な時間となりました。



あば村運営協議会
大賞！
オーライ！ニッポン

は、都市と農山漁村を人々が活発に「往来（おうらい）」し、双方の生活文化を楽しむことで、日本が元気になる「E1」は「健康」になることを表現したものです。

津山市阿波の「あば村運営協議会」が農山漁村イキイキ実践部門で大賞を受賞しました！阿波地区は明治以来、「阿波村（あばそん）」として「村」を維持してきましたが、平成17年2月に津山市と合併しました。急速に人口減少が進む中、何とか地域の維持を、と住民自治協議会の取組を先がけて始めました。地域のコミュニティ組織や各種団体からなる協議会組織を結成し、行政と協働しながら地域課題の解決や地域の活性化を進め、新しい村（むら）のかたちを模索しているところです。

センターからお知らせ
津山市地域づくりサポートセンターは新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、4月18日（土）～5月11日（月）の間、臨時休館いたします。